

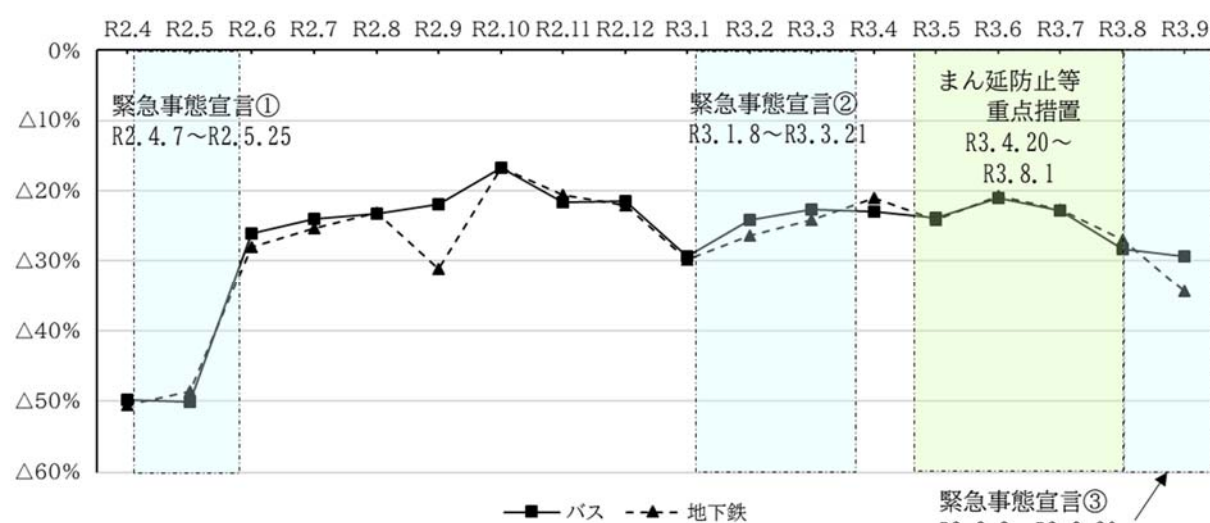
市営バス・地下鉄における乗車券等の一部見直しについて

1 経営の現状

新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、市営バス・地下鉄の乗車人員は今年度に入ってもコロナ禍前より2割から3割程度の減少が続いています。

今後も新しい生活様式の定着などにより、お客様のご利用がコロナ禍前の水準まで回復することは見込みづらく、経営への影響が続くものと考えています。

そこで、経営改善を図るとともに、コロナ禍により変化したお客様の利用状況等に対応した乗車券等の見直しを実施します。

乗車人員の減少率^{※1}の推移

※1 減少率の比較対象はコロナの影響がなかった平成31年3月～令和2年2月の期間の同月比較

※2 地下鉄事業の令和2年9月と令和3年9月の乗車人員が大きく減少している理由は、消費税10%増税前の定期券の駆け込み購入が多かった令和元年9月と比較しているため

2 地下鉄回数乗車券の見直し

(1) 経営の現状を踏まえ、普通回数乗車券の発売を終了します。

[普通回数乗車券の割引による負担相当額]

65,819千円(令和2年度)

(2) 朝ラッシュ時間帯の混雑緩和と日中時間帯のご利用を促進するため、現在、平日の午前10時からとしている昼間割引回数乗車券の適用時間を1時間前倒しし、午前9時からとします。

券種	概要	見直し内容	R2年度乗車人員に占める割合
普通回数乗車券	きっぷ10枚分の運賃で11枚の回数券を発売	発売終了	1.5%
昼間割引回数乗車券	きっぷ10枚分の運賃で12枚の回数券を発売 平日の午前10時から午後4時までの間及び土休日に適用	きっぷ10枚分の運賃で12枚の回数券を発売 平日の午前9時から午後4時までの間及び土休日に適用	0.2%

3 バス定期券等の見直し

紙式定期券は原則廃止とし、交通系ICカード及びモバイルPASMO・Suicaへの一本化を図ります。

なお、障害者割引定期券及び民間バス事業者との共通定期券については、引き続き紙式定期券を販売します。

《令和2年度：バス定期券種別割合》

IC定期券(モバイル含む)			紙定期券				磁気定期券	
全線			全線		民間バス事業者との共通定期券		全線(地下鉄連絡)	
通勤	通学	シニア	通勤	通学	通勤	通学	通勤	通学
81.7%			13.6%		4.4%		0.3%	

また、現在市内16か所で展開している定期券発売所のうち取扱い件数の少ない発売所を終了します。

①若葉台中央 ②磯子駅前 ③浅間町営業所 ④港南営業所 《計4か所》

なお、磯子駅前、港南営業所の定期券発売所を終了することに伴い、磯子営業所での定期券発売を再開します。

《令和4年度：バス定期券発売体制》

発売所(13か所)	
定期券発売所	横浜駅東口
	鶴見駅東口
	中山駅北口
お客様サービスセンター	横浜駅
	上大岡駅
	新横浜駅
	センター南駅
営業所	保土ヶ谷
	若葉台
	滝頭
	本牧
	緑
	磯子(R4年4月から再開)

※市営地下鉄の各駅自動券売機や駅事務室でも定期券をご購入いただけます。

また、モバイルPASMO・Suicaでの定期券購入も可能です。

4 見直しスケジュール

令和4年1月～3月 お客様への周知

令和4年4月1日 見直し実施